

防犯・防災部会

「犯罪・災害から身を守る A・B・C を広く知らせよう」

1. テーマ決定までの経緯

私たちの住む神奈川区は、海と緑と丘が連なる古い歴史の町であり、同時に日本の最先端ともいえる高層ビルが立ち並ぶ近代的な街でもあります。

この街に暮らす私たちはいつ突然犯罪に出会い巻き込まれたり、災害に見舞われたりするかもしれません。東海沖地震への不安や、災害時の要援護者や災害弱者と言われる人々の名簿作り等の対応も考えられている昨今ですので、この部会のテーマを考えるにあたり、意見を出し合い検討を重ねた結果、防犯・防災の両面からをテーマとすることに決定しました。こうした中最近、特に身に及ぶ危険な犯罪が身近に増加しているところの「防犯」を優先して活動を進めることに決定しました。振り込め詐欺のようにお年寄りが多額の金銭的被害を受けているなどということも含め、地域での防犯パトロールのやり方・情報の収集や配信方法なども考慮して、防犯活動を維持していくことが大切であるとの結論に達しました。その具体的な活動については、身近な犯罪に対する地域の安全安心な街を目指し、「犯罪・災害から身を守る A・B・C を広く知らせよう」に決定しました。

防犯を優先することから、先ずは、次のような活動方針を立てました。

- (1) 各地域における犯罪発生状況を知ろう
- (2) 各地域の防犯活動を知ろう
- (3) 行政及び警察署の防犯活動を知ろう
- (4) 防犯活動の在り方を地域に発信しよう
- (5) 提言・実行をしよう



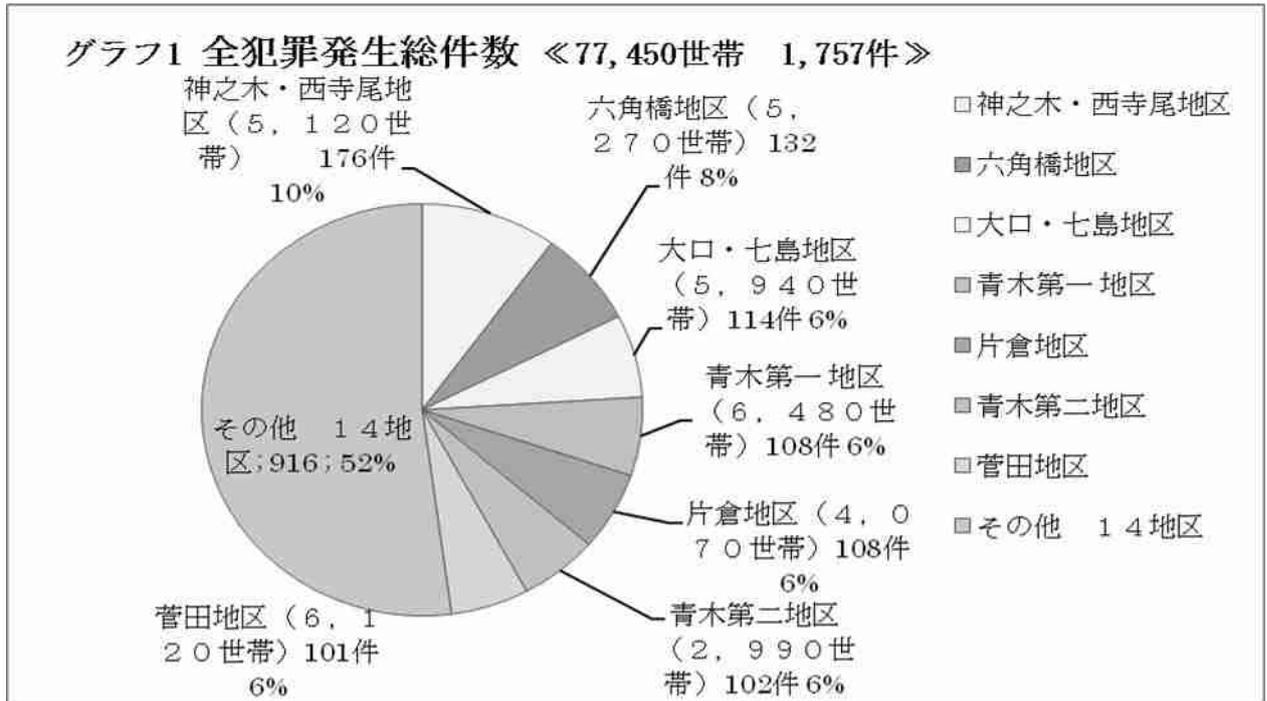
2. 活動内容について

- (1) 各地域における犯罪発生状況を知ろう

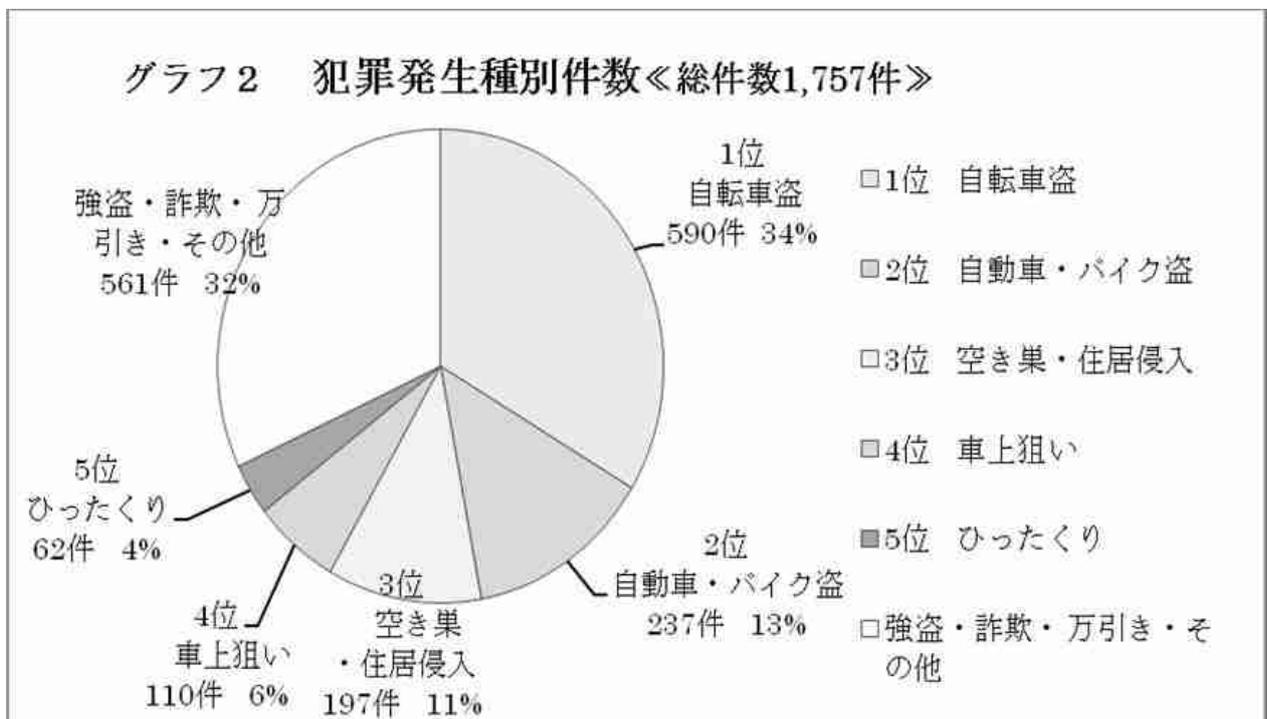
犯罪状況の収集と発生件数の集計により、各地域での犯罪発生状況を知るために、神奈川警察署から、各地区連合会長及び防犯関係者へ毎月2回配信される「日別犯罪発生状況」を利用することにしました。

今回は活動期間中である平成21年(1月～12月)の1年分を集計しました。犯罪発生種別件数1,757件の種別1位は自転車盗が590件、2位は空き巣が197件と多く、身に危険がおよぶこともあるひったくりが5位で、62件(グラフ2参照)ありました。これを地域別で見ると、1位神之木・西寺尾地区が176件、2位六角橋地区が132件、3位大口・七島地区が114件となっています。

①調査結果と2009年度(1月～12月)の犯罪発生件数と各グラフに見る考察



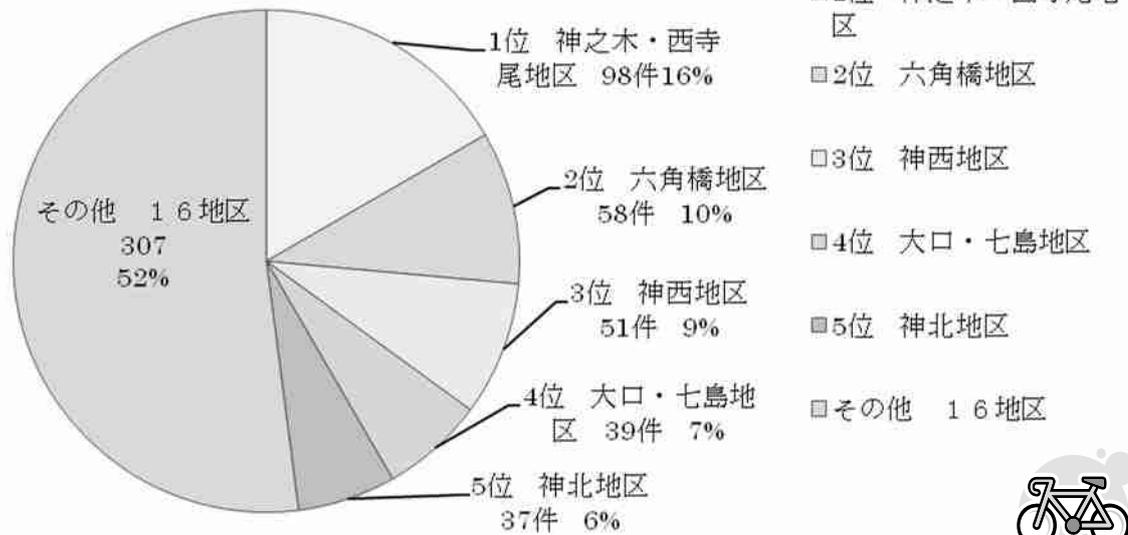
* 神之木・西寺尾地区、六角橋地区、大口・七島地区、青木第一地区、片倉地区、菅田地区までの7地区で、全体の約50%になる。神之木・西寺尾地区、六角橋地区の犯罪発生件数の大半が自転車盗である。鉄道駅や商店も多い。住宅地からの交通手段に自転車などの利用者が多いと思われる。また細い路地や暗がりが多いのも要因になっていると見られる。



* 総件数 1,757 件中 34% (590 件) は自転車盗が占めている。また自動車・バイク盗を含めると 47% (827 件) にもなる。これら乗り物盗が減らせれば、大幅に犯罪発生を減少させることができると思われる。

グラフ3 地域別自転車盗発生件数（09年1月～12月）

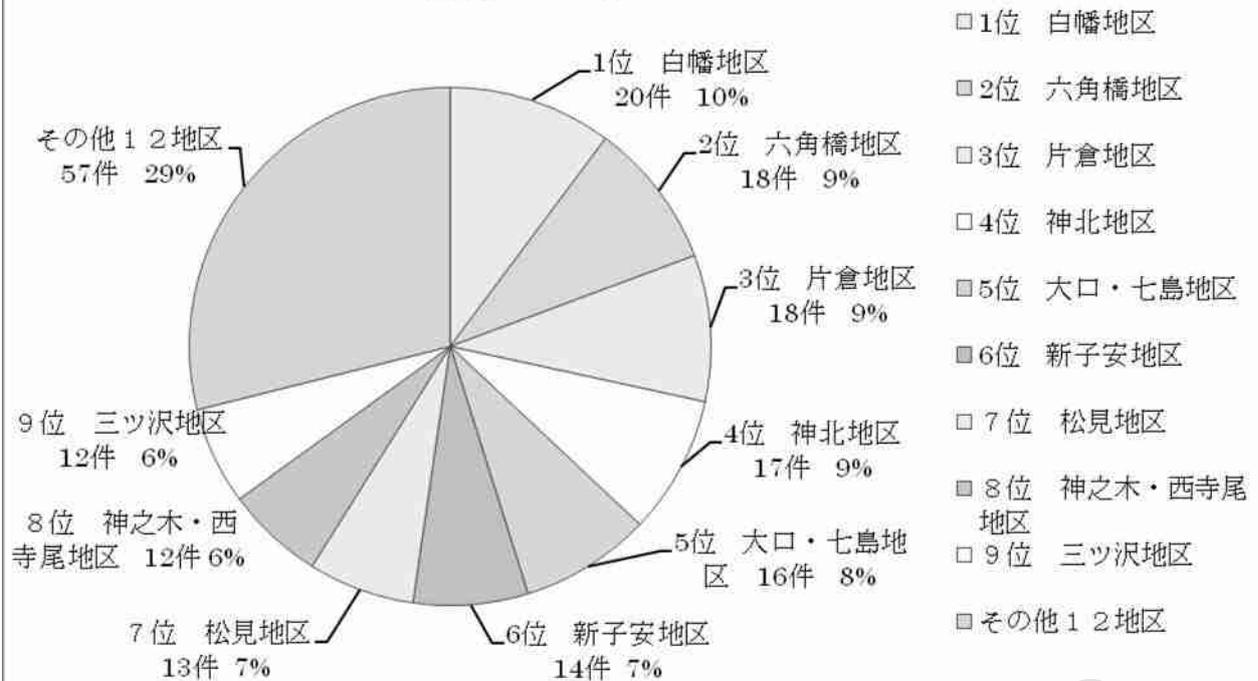
《総件数 590件》



＊ 全 21 地区（590 件）中、神之木・西寺尾地区、六角橋地区、神西地区、大口・七島地区、神北地区で、約 50%を占める。その中でも神之木・西寺尾地区（98 件）、六角橋地区（58 件）が突出している。その原因の一つに、買い物や駅への交通手段に自転車の利用者が多いことが挙げられるが、全体的に駐輪場が少なく放置自転車が多いことが影響していると思われる。また利用者の問題として、無施錠や違法駐輪の問題も考えられる。

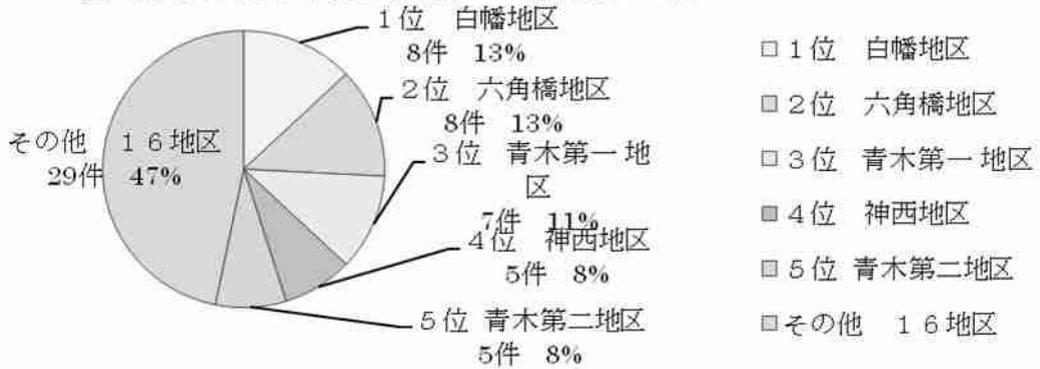
グラフ4 地域別空き巣・住居侵入発生件数（09年1月～12月）

《総件数 197件》



＊ 顕著な地域性はない、どの地区でも平均的に発生している。一番多い白幡地区で 20 件、9 番目の三ツ沢地区でも 12 件である。狙われやすい場所としては、道路からの死角が多い家、住宅密集地や集合住宅、留守がちな家などが考えられる。

グラフ 5 地区別ひったくり発生件数 《総件数62件》



*白幡地区、六角橋地区、青木第一地区、神西地区、青木第二地区の5地区で53%発生している。この原因としては、駅周辺から住宅地に入る地域、メインの道路から一本入ると細い道路や暗がりの場所が多い地域が考えられる。



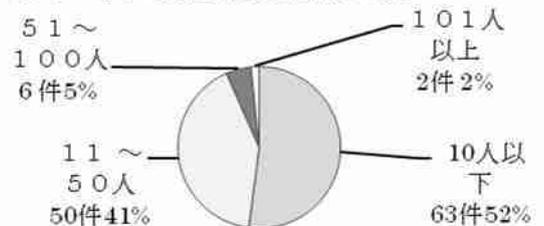
(2) 各地域の防犯活動を知ろう

「自分たちの町は、自分たちの手で守ろう」を合言葉にそれぞれの自治会町内会、あるいは連自治会ごとにそれぞれの方法で防犯活動を行っています。しかし、他の地域で行われている防犯活動の実態は広く知られていません。今回各地で行われている防犯活動の実際を調査し、その活動効果を考察し、効果がある防犯活動を各地に発信する資料を得るためにアンケート調査を行いました。神奈川区全185自治会町内会にご協力をお願いしました。そのうち157の自治会町内会からの回答を戴き、その回収率は84.9%でした。

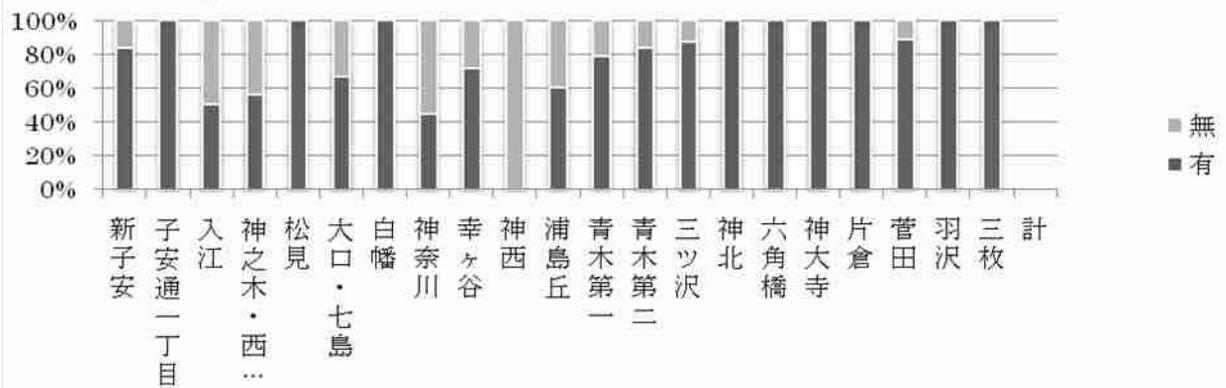
・アンケートの集計結果・分析

円グラフは神奈川区、棒グラフは各連合地区におけるそれぞれのアンケート項目の比率を表示しています。記載されていない項目は、検討の過程で割愛しました。しかし、区民協議会のHPには、アンケート結果のすべてが記載してあります。

グラフ6 Q4 防犯活動組織人員



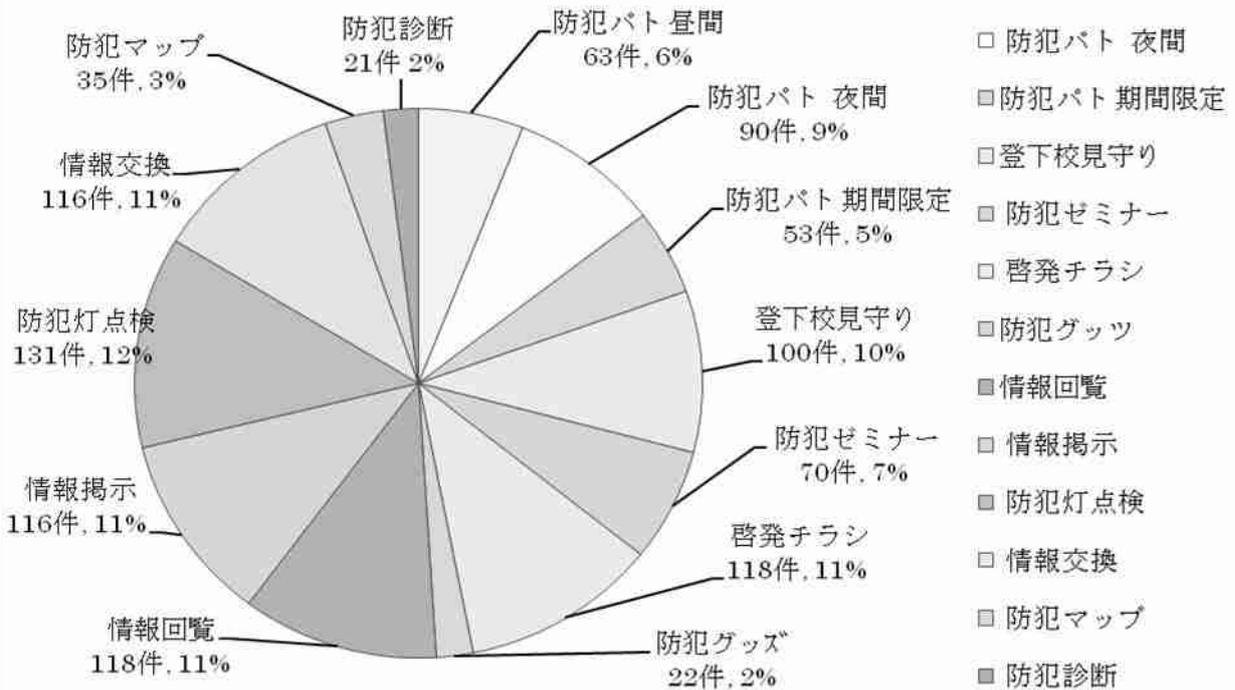
グラフ7 Q4 防犯活動組織の有無



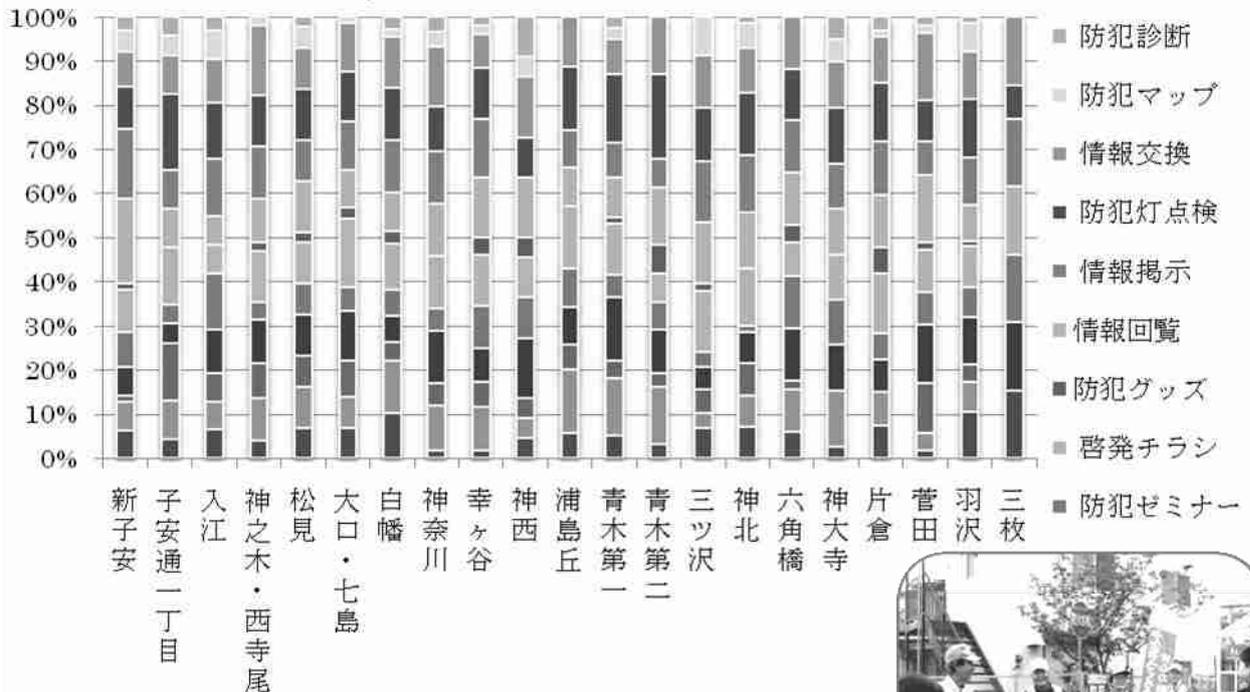
* 区全体では、80%強の自治会町内会が防犯組織を持っている。(グラフ省略)

* 区全体では、組織人員10人以下が50%を占め、11～50人が約40%を占め、100人以上の構成員で活動している自治会町内会は菅田、羽沢地区の2自治会町内会がある。松見、青木第一、第二、神北、羽沢地区の自治会町内会の活動人員は比較的多い。

グラフ 8 Q5 防犯活動形態



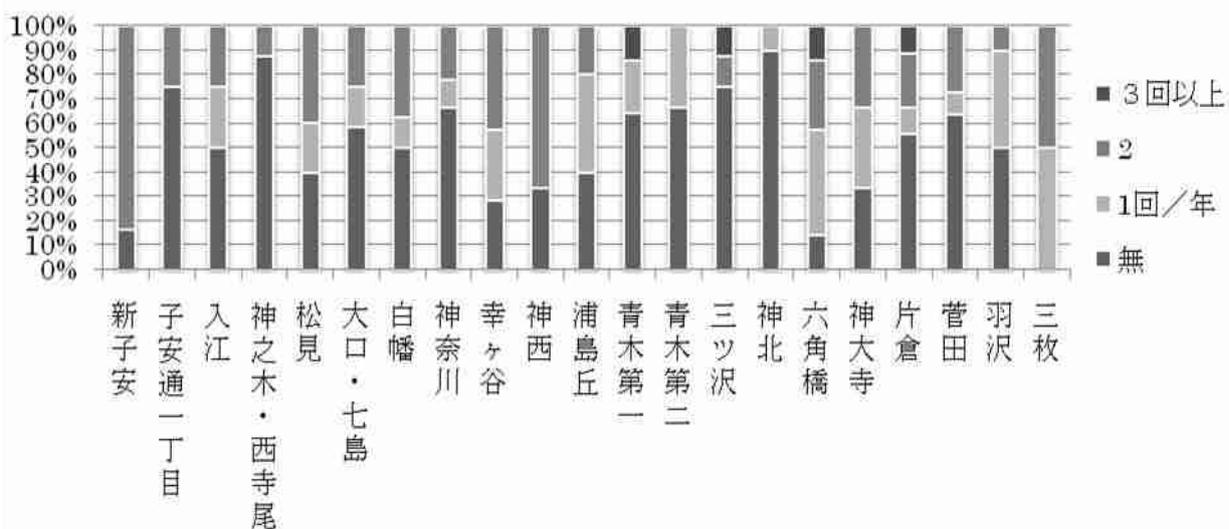
グラフ 9 Q5 防犯活動形態



- * 各自治会町内会の防犯活動形態は多岐にわたるが、昼間、夜間、期間限定のいずれかで防犯パトロールを行っている。
- * 防犯セミナーの占める割合が7%と少ない。
- * 児童登下校見守り、啓発チラシ、情報掲示、情報交換等は、各自治会町内会で行っている。

パトロール風景

グラフ 10 Q8 防犯セミナー実施回数

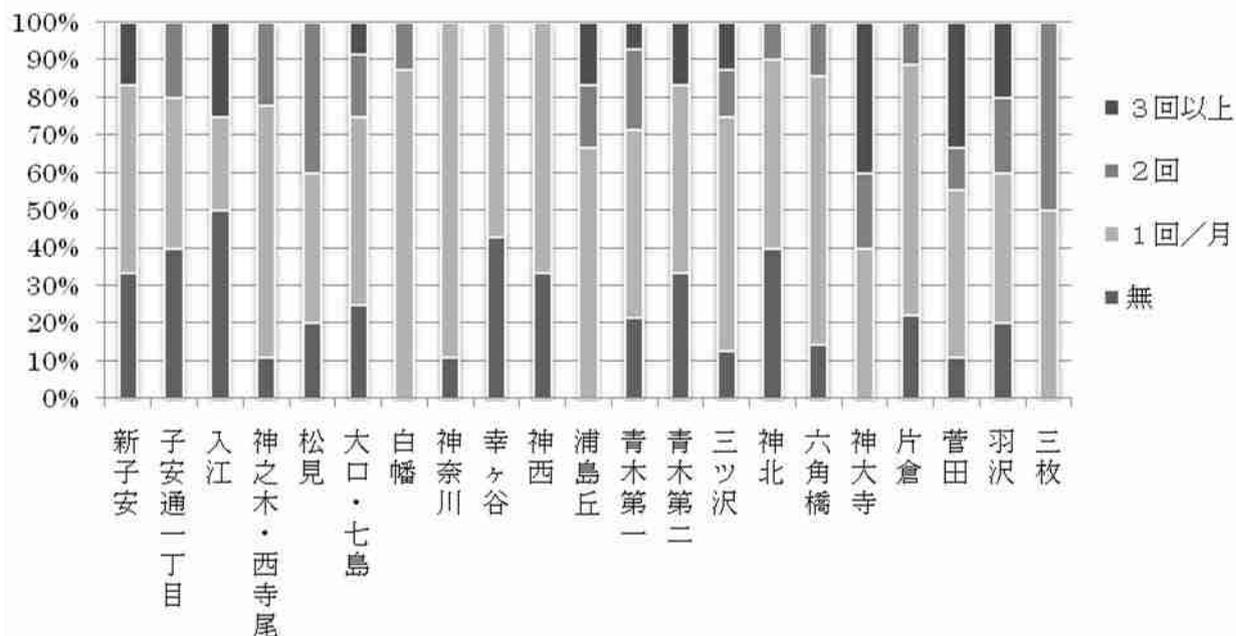


* 各自治会町内会は防犯セミナーとして、寸劇・懇談会・講習会等を実施している。
(グラフ省略)

* まったく実施していない自治会町内会は、子安通一丁目、神之木・西寺尾、三ツ沢神北に多く見られる。

* 新子安、六角橋三枚地区は実施している自治会町内会の割合が多い。

グラフ 11 Q10 情報交換回数

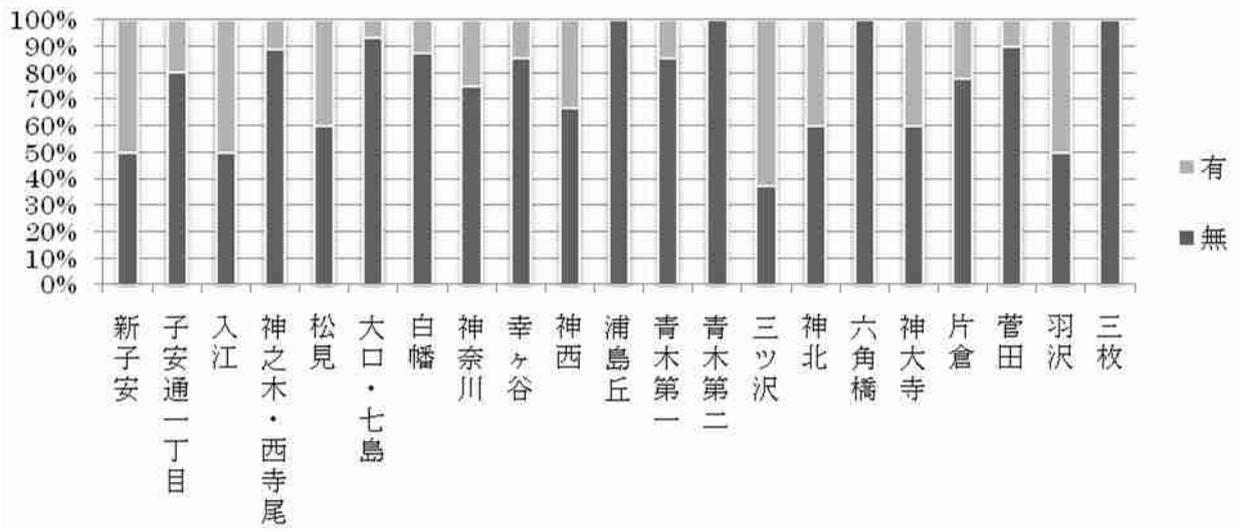


* まったく実施していない自治会町内会が 20%強ある。(グラフ省略)

* 半数以上の自治会町内会が 1回/月実施している。

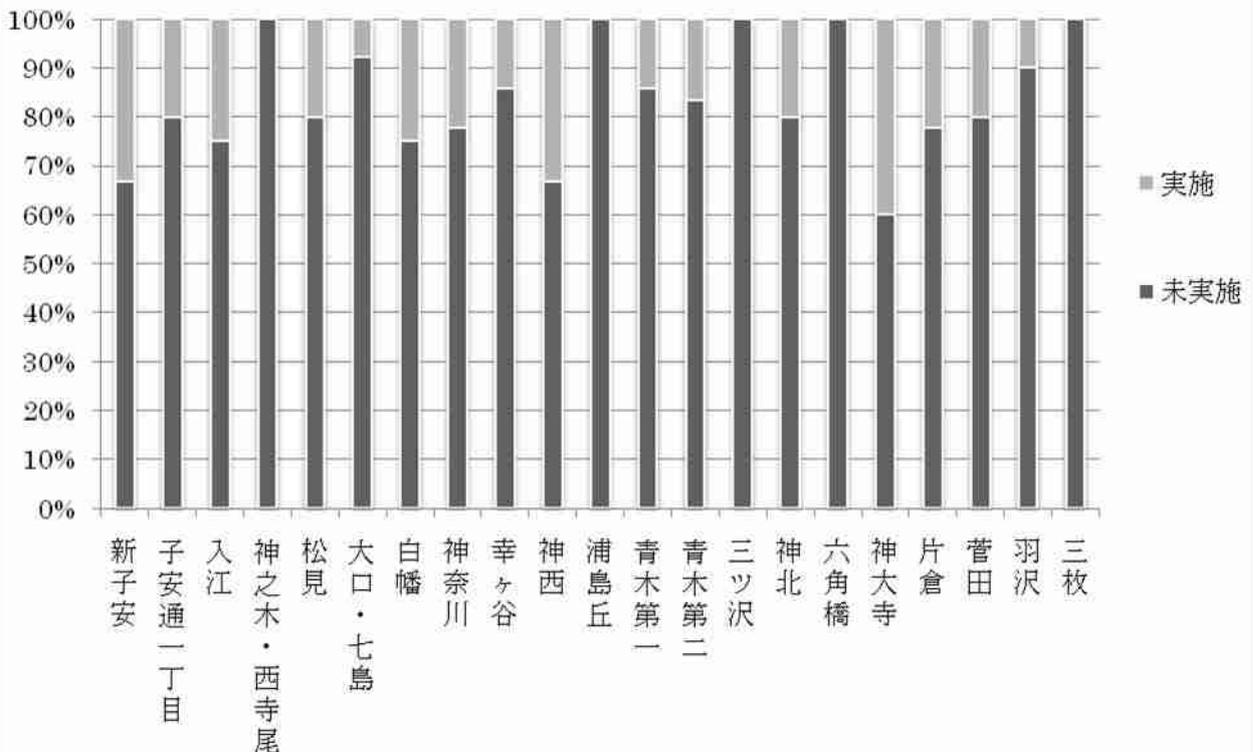
* 子安通一丁目、入江、幸ヶ谷、神北地区においては、約 40%の自治会町内会が実施していない。

グラフ 12 Q11 防犯マップの有無



- * 持っている自治会町内会は 20%強で、80%弱の自治会町内会は作成していない。(グラフ省略)
- * 新子安、入江、三ツ沢、羽沢地区では 50%の自治会町内会が作成済みである。

グラフ 13 Q12 防犯診断の実施



- * 実施した自治会町内会は 15%で、85%は実施していない。(グラフ省略)
- * 新子安、神西、神大寺地区は、30%強の自治会町内会町内会で実施している。

(3) 行政及び警察署の防犯活動を知ろう

行政及び警察の、地域に密着した防犯活動とその現状を把握しました。

また犯罪発生状況と地域に防犯活動の在り方について、神奈川署の防犯担当者と当部会委員との意見交換の場を持ちました。事前配布の資料（防犯アンケートの集計表・グラフ）を基に部会の活動状況を説明し、警察の防犯活動についての説明を受け意見を交わしました。『警察としても「防犯アンケート」のデータから地域の防犯の取り組みが参考になり、各自治会町内会と連携して防犯に力を合わせていきたいと考えている』ということでした。

(4) 防犯活動の在り方を地域に発信しよう

今回の活動で、1年間の期間でとらえた地域の犯罪発生状況の集計グラフから、それぞれの地域にどのような犯罪が発生しているのか知ることができます。また「防犯アンケート」の集計結果から他地区の防犯活動状況を得て、今後の活動に向けてぜひ、参考資料として活用して頂きたいと思います。



(5) 提言・実行をしよう

神奈川区内で犯罪発生率が多いのは、自転車・バイク盗で約50%を占めています。これらの犯罪は、ひったくり等の二次犯罪の要因にもなっているので深刻であると考えます。地域の特色としては、鉄道駅・商店スーパー等の商業施設や学校があることで、通勤・通学・買い物客等の人の往来が多いことです。設備及び環境を見ると、各駅前には駐輪場が少しはありますが、JR大口駅でも神之木側はさらに少ないように思われます。また京急子安駅や東横線の白楽駅は、駅の傍には駐輪場は無く、駅から離れています。

空き巣・住居侵入の発生件数は、自転車・バイク盗に次いで多く、その件数は197件で、割合は11%を占めています。地域の特色は、駅周辺の商業地区を取り囲む住宅街、戸建や集合住宅が混在する地域、または駐車場、空き地、緑の空間が点在する地域でもあります。それらの地域での防犯活動を見るとそれなりに行ってはいますが、情報交換・防犯マップの活用及び防犯診断の実施等が不足しているように思います。以上の事から次の2点を提言します。

- ① 区内での犯罪発生件数で大半を占めている自転車及びバイク盗を減少させるために、適正なる駐輪場の設置を促進すること
- ② 当部会でまとめた犯罪発生状況及び「防犯アンケートの結果」を有効活用し、各地域における犯罪に対するきめ細やかな防犯活動を行うこと

3. まとめ

地域の犯罪発生状況や防犯アンケートの集計・分析作業などから、地域での活動の苦労を感じました。防犯活動は日常の生活に密着しています。隣近所との日ごろからの繋がりが強い力になります。防犯への地道な活動を、地域にあって共に考えていきたいと思えます。